

# 増川の

# 黒仏さん

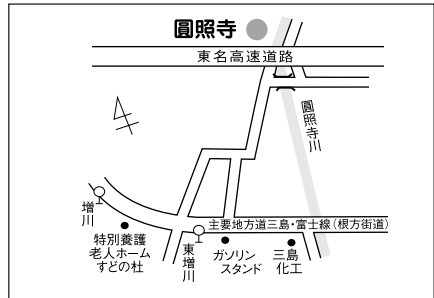
平成十二年三月五日号

増川三丁目の圓照寺えんしょうに「黒仏さん」と呼ばれる仏像があります。これは、高さが九十七センチメートルくらいで、ヒノキの一刀彫りでつくられ、お寺の初代ご本尊でした。今回は、この「黒仏さん」に伝わる話を紹介します。

昔、増川・江尾の一带には浮島沼が広がり、根方街道は北の愛鷹山ろくの山すそを周るようにあります。当時、根方街道は重要な道で、旅人も多く往来していました。

いつのころからか、馬に乗った旅人が圓照寺の前を通るとき、寺のご本尊の方を向いて礼をしないと、必ず落馬すると言われるようになりました。

馬に乗った旅人は、必ず礼をして通りましたが、ある日、「そんなばかなことがあるものか」という旅人が礼をせずに通りました。すると、やはり落馬してしまいました。なぜ落馬するのか理由がわかりませんでした。なぜ落馬するのか、住職が道路の方を向いてみた。すると、その日から落馬する旅人がなくなつたということです。





▲ 圓照寺の地蔵堂



黒仏さん ▶

圓照寺の住職 日比昭生さん（江尾）

黒仏さんは、その名のとおり真つ黒な色をしています。圓照寺の初代ご本尊として祭ら

れていたのですが、時代や作者など詳しいことはわかっていません。彫りが密であるという作風から、室町時代のものではないかと言われています。また、この仏像は釈迦如来像ですが、圓照寺は浄土宗で本来阿弥陀如来像を祭るということから、この寺の創建（寛永十年・一六三三年）以前に伝わってきたものと言われています。

現在黒仏さんは、地蔵堂の中に祭られていて西側を向いています。毎年八月二十六日に行われる圓照寺岩船地藏尊大祭と大みそかの日に、地蔵堂を開いて皆さんにお披露目しています。

※元禄元年（一六八八年）作の石仏。沼地であつたこの地域で、船の安全を守り、水に対する厄よけをしてくれる地蔵さんとして知られています。